

平成22年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	萌芽研究		研究代表者 氏 名	鈴木 佳苗
研究課題	青少年のネットいじめの生起にかかわる要因の検討 - ストレス・イベント経験の分析 -			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
鈴木佳苗	筑波大学・図書 館情報メディア 研究科・准教授	社会心理学	研究統括	
研究目的				
<p>インターネットの普及に伴って、ネットいじめの問題が深刻化してきている。研究代表者らの研究グループでは、これまでに安心ネットづくり促進協議会、総務省、三菱総合研究所と連携し、青少年のインターネット利用がネットいじめの加害行動の生起に及ぼす影響に関する研究を行ってきた。今後さらにネットいじめの加害行動を低減するための方法を検討していくことが重要であり、そのためには、ネットいじめの加害行動にかかわる要因を検討していくことが必要であると考えられる。そこで、本研究では、ネットいじめの生起を促進する要因としてあげられることの多い日常生活のストレス・イベントを取り上げ、高校生を対象とした調査によって、どのようなストレス・イベントが実際にネットいじめの加害行動の生起に関連しているのかを検討することを目的とする。</p>				
研究成果				
<p>本研究では、高校生を対象として質問紙調査を実施し、家庭環境、学校環境、対人関係の 22 項目のネガティブ・ストレスイベントの経験の有無とネットいじめの加害行動の生起の関係を分析した。その結果、1)ネガティブ・ストレスイベントの経験の多さがネットいじめの加害行動の生起と弱い関係があり、2)ネガティブ・ストレスイベントの中で、引越しや友人とのトラブルなどによって友人と離れたり、家族構成が変わったりする経験がネットいじめの加害行動の生起と弱い関係があることなどが示された。</p> <p>また、本研究のテーマである「ネットいじめ」の研究プロジェクトが2011年2月に最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択された(研究題目:「ネットいじめ研究の新展開 - 『行動する傍観者』を生み出すプログラム -」)。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
<p>鈴木佳苗・山岡あゆち・赤坂瑠以・坂元章・檀淵めぐみ(2010). 子どものインターネット使用といじめ (1) - 加害経験の単純集計 - 日本心理学会第74回大会(大阪大学) 発表論文集, 1217. 赤坂瑠以・鈴木佳苗・山岡あゆち・檀淵めぐみ・坂元章(2010). 子どものインターネット使用といじめ (2) - 小・中・高校生の被害経験の単純集計 - 日本心理学会第74回大会(大阪大学) 発表論文集, 1218. 山岡あゆち・鈴木佳苗・赤坂瑠以・坂元章・檀淵めぐみ (2010). 「子どものインターネット使用問題」 に対する取り組み - 小学生から高校生のデータの単純集計 - 日本社会心理学会第51回大会(広島 大学) 発表論文集, 294-295.</p>				